

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

| | |
|------|--|
| 対象部局 | 文学部 |
| 大項目 | 5 学生の受け入れ |
| 中項目 | |
| 小項目 | 5.0.1 学生の受け入れ方針を明示しているか。 |
| 要素 | 求める学生像の明示 当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準の明示 障がいのある学生の受け入れ方針 |
| 小項目 | 5.0.2 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。 |
| 要素 | 学生募集方法、入学者選抜方法の適切性 入学者選抜において透明性を確保するための措置の適切性 |
| 小項目 | 5.0.3 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。 |
| 要素 | 収容定員に対する在籍学生数比率の適切性 定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応 |
| 小項目 | 5.0.4 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的 に検証を行っているか。 |
| 要素 | |

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

| 2009年度に設定した「目標」 | 左記目標の「指標」 | 進捗評価 |
|---|---|------|
| 1. 明記されている文学部アドミッション・ポリシーを受験生に広報する。 | →大学・学部広報誌、WEBサイトへの各種入試アドミッションポリシーの掲載数、オープンキャンパスなどでの広報活動 | C |
| 2. 関西学院大学「障がいのある学生受け入れ方針」に則り、障がい学生の受け入れと教育を着実に遂行する。 | →文学部が毎年受け入れ、支援している障がい学生数およびその支援内容 | B |
| 3. アドミッションポリシーの徹底という観点から、文学部の一般入試・各種入試のあり方を総合的に再検討し、改善する。 | →一般入試・各種入試内容の具体的な検討経過報告および現実に実施した入試方法の改善項目 | C |

| 2010年度以降に設定した「目標」 | 左記目標の「指標」 | 進捗評価 |
|-------------------|-----------|------|
| | → | ☆ |
| | → | ☆ |

《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

| | |
|------------|---|
| ☆ 小項目5.0.1 | 文学部で策定した各種入試のアドミッション・ポリシーを広く受験生に広報することを目標としている。現状では、まだ大学の広報誌、WEBサイトにこれを掲載できていない。オープンキャンパスでの広報も不十分である。 |
| ☆ 小項目5.0.2 | 学生の募集、入学者選抜方法、入学者選抜方法の透明性については、現状において適切に行っている。 |
| ☆ 小項目5.0.3 | 収容定員に対する在籍学生比率は2010年度入試で改善を進め、2010年度現在1.11(留年者を除くと1.06)である。 |
| ☆ 小項目5.0.4 | (現状説明) 大学入試部からの正確な情報をもとに、学部執行部会および「入試制度検討小委員会」において、前年度の入試選抜の検証と選抜方法の改善の検討を定期的に行っている。 |
| ☆ その他 | |

《特定6項目データ》

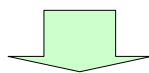
本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

| 【文学部】 | | 単位 | 2006 | 2007 | 2008 | 2009 | 2010 | 備考 |
|-------|-------------------|----|-------|-------|-------|-------|-------|------------------------------------|
| 指標1 | 入学者に占める一般入試入学者の比率 | % | 62.3% | 65.8% | 63.0% | 63.1% | 56.3% | 一般入試入学者数÷入学者数 (注)一般入試にセンター入試を含む |
| 表 | 入試形態別入学者数 | | → | → | → | → | → | 大学基礎データ表15参照 |
| 表 | 学部の社会人・留学生・帰国生徒数 | | → | → | → | → | → | 大学基礎データ表16参照 |
| 指標2 | 志願者総数 | 人 | 9,478 | 8,737 | 8,610 | 8,975 | 7,333 | |
| 指標3 | 志願者倍率 | 倍 | 12.3 | 11.3 | 11.2 | 11.7 | 9.5 | 志願者÷入学定員 |
| 指標4 | 入学者に占める近畿圏出身者の比率 | % | — | — | — | — | — | 近畿圏出身入学者数÷入学者数 (注)出身は出身高校の地域による |

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

| | |
|-----------|---|
| 小項目5.0.1 | 「障がい学生員会」、「キャンパス自立支援課」との協同により、障がい学生受け入れを着実に進めている。 |
| 小項目5.0.2 | 「入試制度検討委員会」、「学部委員会」、「教授会」での検討を経て、2011年度入試より「外国人留学試験」の記述試験の種類を1種類から2種類に増やし、より適切な選抜評価を可能にする形態に改善した。 |
| ★小項目5.0.3 | 2010年度入試全体において、ほぼ定員どおりの入学者を採用し、定員に対する在籍学生比率を改善した。 |
| 小項目5.0.4 | 「定着率検討委員会」、「入試制度検討小委員会」、「進路情報意見交換会」において、学生募集、入学者選抜の検証改善を着実に進めてきた。 |
| その他 | |



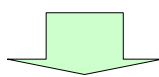
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

| | |
|-----------|---|
| 小項目5.0.1 | 大学と学部の連携のもとに、障がい学生が学びやすいキャンパスや支援体制をさらに充実してゆく。 |
| 小項目5.0.2 | 各種入学試験の毎年の検証を行うことで、他の入試種別の改善も図る。 |
| ★小項目5.0.3 | 入学定員に近い合格者数を確保できるよう判定方法の改善を図る。 |
| 小項目5.0.4 | 今後も現在の検証を着実に継続し、データを蓄積してゆく。 |
| その他 | |

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

| | |
|-----------|--|
| 小項目5.0.1 | 広報誌、WEBサイトに「アドミッション・ポリシー」が十分明示的に記載されていない。 |
| 小項目5.0.2 | 最近の受験生の関心に対応する学生募集活動が不十分な可能性がある。 |
| ★小項目5.0.3 | ここ数年、隔年で入学者数のブレ幅が生じている。また学生の指導、相談を強化しているにも拘わらず、残留学生数はここ数年150～160人程度で横ばい状況が続いている。 |
| 小項目5.0.4 | |
| その他 | |



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

| | |
|-----------|---|
| 小項目5.0.1 | 各入試種別におけるアドミッション・ポリシーを精査し、分かりやすい形で広報誌、WEBサイトで広報を行う。 |
| 小項目5.0.2 | 2011年度入試において、入学者選抜方法をさらに改善することにより、2010年度入試で減少した志願者数を可能な限り従前レベル程度に回復したい。 |
| ★小項目5.0.3 | 入学者数をできる限り入学定員に近づける努力を継続するとともに、残留学生への支援をさらに充実することにより在籍学生数を一層適正化する。 |
| 小項目5.0.4 | 受験者の定着率検討方法の改善、現行の入試方法の不断の再検討により、時代の変化に即した選抜制度を整備する。 |
| その他 | |

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★ その他
(自由記述)

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

【学外委員】

○指摘されているように、2010年度の志願者倍率が10を切って大きく低下している点が懸念されます。

【学内委員】

○アドミッション・ポリシーを広く知らしめ、多様な方法によってさまざまな学生を受け入れることはきわめて重要です。ただし、受け入れる学生の質を高めるためには、受け入れた学生の品質管理が不可欠です。
○学科が多いので、アドミッションポリシーは明確にする必要があります。また、学部全体だけでなく、各学科のアドミッションポリシーに近いものの作成が求められます。
○編入学試験において募集人員を「若干名」としている場合、定員充足しているにも関わらず多くの学生を受け入れている場合は助言の対象となる可能性がありますので注意してください。
○大学基準協会の「評価に際し留意すべき事項」(ハンドブックP78～)において、水準評価として数値による評価がなされるものに注意してください。「4. 学生の受け入れ ③学部における過去5年の入学定員に対する入学者数比率の平均が1.00である」「同、④学部における収容定員に対する在籍学生数比率が1.00である」については、それぞれ助言や勧告の対象値が示されています。絶えず確認し遺漏のないようにお願いします。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ なし

Ⅴ. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

| | |
|-----------|------------------------------------|
| 5.0.0.S1 | 学生の多様性の確保ー入試形態数と入試形態別入学者の割合 |
| 5.0.0.S2 | 各学部の募集人員のうち、一般入試(センター利用入試を含む)の割合 |
| 5.0.0.S3 | 地域別入試会場別志願者数、受験者数、合格者数、入学者数 |
| 5.0.0.S4 | 入試講評(問題と正解、正答率とそのコメント)の公表とその頒布数 |
| 5.0.0.S5 | AO入試の受験者数と入学者数 |
| 5.0.0.S6 | 社会人学生数(学部別、研究科別) |
| 5.0.0.S7 | 専門職大学院(KGPS)の受験者数および入学者数 |
| 5.0.0.S8 | 科目等履修生(教職免許状および博物館学芸員資格取得を含む)の入学者数 |
| 5.0.0.S9 | 聴講生の入学者数 |
| 5.0.0.S10 | 留学生数(学部別、研究科別) |
| 5.0.0.S11 | 国別留学生数(学部別、研究科別)の経年変化 |
| 5.0.0.S12 | 学部における収容定員に対する在籍学生数比率 |
| 5.0.0.S13 | 学部における入学定員に対する入学者比率 |
| 5.0.0.S14 | 編入学定員に対する在籍学生数比率 |
| 5.0.0.S15 | 博士課程前期課程における、研究科ごとの収容定員に対する在籍学生数比率 |
| 5.0.0.S16 | 博士課程後期課程における、研究科ごとの収容定員に対する在学学生数比率 |
| 5.0.0.S17 | 学部・学科の退学者数 |
| 5.0.0.S18 | 学部・学科の編入学者数 |

<個別的な指標>

| | |
|--|--|
| | |
| | |